試行錯誤を続け乗り越えた経験を強みに伊達の誇りをPR

梅津（うめつ） 善幸（よしゆき）

伊達市役所 産業部 農政課長

昭和38年（1963）、伊達市生まれ。
旧伊達町役場に入職後、2006年の合併で伊達市職員となる。
東日本大震災発災の年に放射能対策課除染対策係長に。
伊達市農林業振興公社出向、放射能対策課長を経て現職。

「土を剥（は）がしたら数値が下がらないだろうか？」。
原発事故の後、市内に放射線量が高い地域があるのを知り、
伊達市（だてし）として独自に除染の取り組みを開始。連日のように日付が変わるまで働き、
土日も休まずに走り続けました。数値が下がるとうれしくて、不思議と底力が
湧いてきたものです。市民の不満や不安が一気に押し寄せる除染の説明会では、
「安心な暮らしを取り戻すために必要なこと」と繰り返し話をしました。
その後、環境省のスキームができて、私たちの除染の手法について聞いていただき、
一緒に地域に入り現場を見て意見を交わし、考えていくやり取りから、
「話し合うこと」の大切さを再認識しました。
次の職場では、原発事故で急増したイノシシを活用する革製品「ino DATE」の
開発に着手。最初「何をしてるの？」といぶかしく見ていた人が多かったのですが、
現在は商品の引き合いも多く、ワークショップが人気です。
銀座の街角に出荷制限解除後も風評被害の残る「あんぽ柿」を吊（つ）るして
熟成過程を見てもらう取り組みは、2015年から5年続きました。
それぞれの立場から未曾有（みぞう）の災害を乗り越えてきた経験は大きな強み。
誇りをもって、市の取り組みをPRしていきたいと思います。

一時出荷が制限されていた「あんぽ柿」。
風評被害払拭とブランド復活に向け銀座でPRした